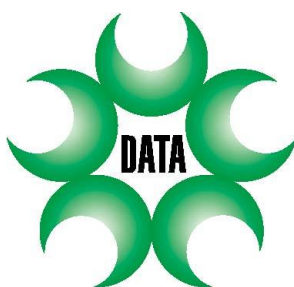


2016/02/10

# TACTiCS 財務 16

## 決算処理（個人）の注意事項



## 目次

- ① [青色申告決算書の負債の部「貸倒引当金」に集計するには](#) ……1
- ② [受取利息を青色申告決算書の負債の部「事業主借」に集計するには](#) ……5
- ③ [個人データの印刷設定における貸借区分の混在について](#) ……5
- ④ [業種区分\(一般/不動産\)を間違えていた場合は](#) ……6
- ⑤ [農業所得用の青色申告決算書](#) ……7
- ⑥ [事業所得も不動産所得もある場合](#) ……8
- ⑦ [事業所得と不動産所得があるが預金口座が一つの場合の処理例](#) ……8
- ⑧ [TACTiCS 達人Ⅲで 280、343～364、374 の科目を使っている場合](#) ……10
- ⑨ [翌年度更新時の事業主勘定・元入金の相殺](#) ……11
- ⑩ [青色申告決算書の予備科目欄へ集計させるには](#) ……11
- ⑪ [TACTiCS 財務から所得税の達人へ連動される対象項目](#) ……13
- 更新** ⑫ [消費税申告書の「名称または屋号」と「代表者氏名又は氏名」の印字は](#) ……16

◆TACTiCS 財務 16 (Ver8.0.0) における仕様を基に作成しています。

◆目次に **更新** マークがある項目は 2015/02/06 付けの『TACTiCS 財務 15 決算処理(個人)の注意事項』での掲載内容が TACTiCS 財務 16 で変更されている項目です。

◆説明の中で **重要** マークがある内容は注意喚起として掲載している項目です。必ずお読みください。

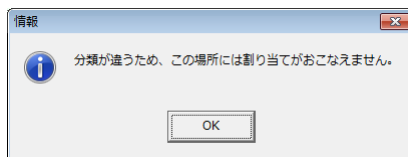
---

Q

コンバートで資産の部に引き継がれた「278:貸倒引当金」を、青色申告決算書の四面の負債の方へ集計させるにはどうすればいいですか？ **重要**

A

TACTiCS 財務では、【初期設定】-【科目設定】印刷設定タブの雛形「決算書」を選択し、勘定科目を割り当てることによって青色申告決算書の方へ反映させることができますが、科目分類を越えて割り当てることができない仕様になっております。(次のメッセージが表示されます。)



そのため、資産の部にある「278:貸倒引当金」をそのまま負債の部に割り当てることはできません。

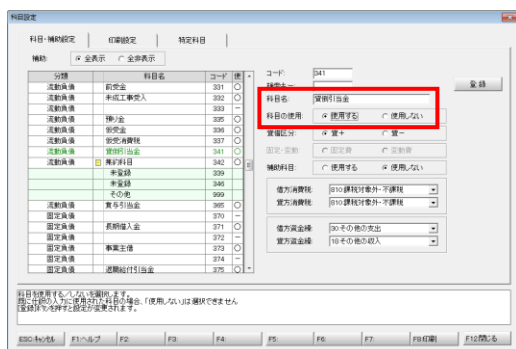
したがって**負債の部に貸倒引当金を登録し、仕訳・残高を置き換える必要があります。**

以下の手順は TACTiCS 財務 13 までにコンバート・新規作成したデータの対処手順です。

TACTiCS 財務 14 以降でコンバート・新規作成したデータについては [4 頁](#) を参照してください。



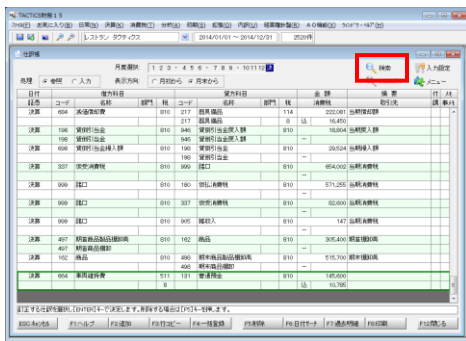
- ①【初期設定】-【科目設定】を開き、流動負債の中で未使用箇所をクリックし Enter キーを押します。  
※ここでは 341 を例に説明します。



- ②画面右側の科目情報欄で、科目名を入力し、科目の使用欄で「使用する」を選択後、右上の「登録」ボタンをクリックします。

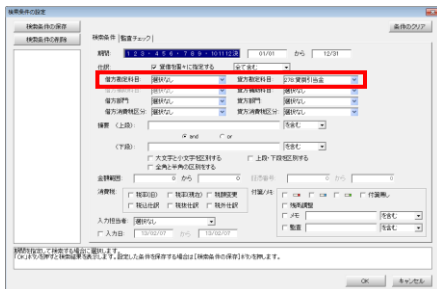


③印刷設定タブを開き、雛形で「決算書」を選択します。負債の部の「貸倒引当金」の1番の欄に登録した科目コード(ここでは341)を入力します。設定が終わったら科目設定を閉じます。



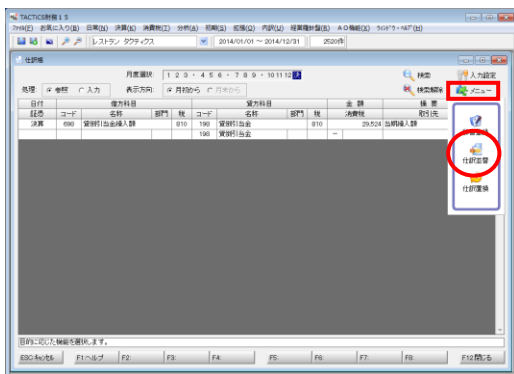
④【日常処理】-【仕訳帳】を開き、右上の「検索」ボタンをクリックします。

※追加した341の科目へ仕訳データを置き換えます。ここでは「仕訳置換」機能を使って説明しますが、**仕訳の修正や、振替仕訳を入力する方法でも問題ありません。**

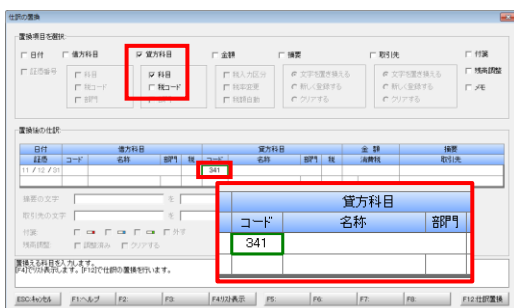


⑤検索条件画面が表示されます。科目で資産の方の貸倒引当金を指定し「OK」ボタンをクリックします。

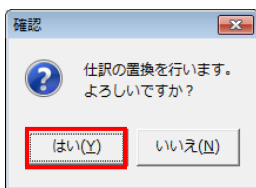
※ここではまず「貸方」の方で検索しています。



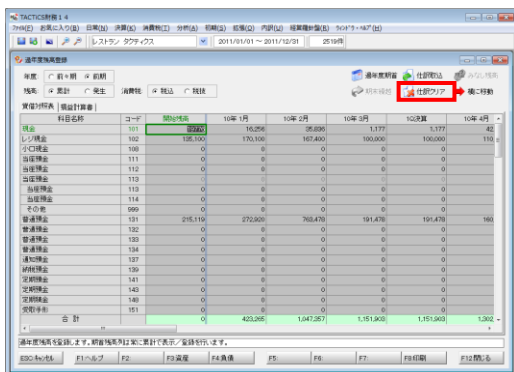
⑥検索結果が表示されます。右上の「メニュー」ボタンをクリックし、「仕訳置換」を選択します。



⑦仕訳の置換画面が表示されます。置換項目を選択欄で、科目(ここでは貸方科目)にチェックを付け、更に「科目」にチェックを付けます。画面中央の置換後の仕訳欄で、置き換える科目コード(341)を入力し、「F12:仕訳置換」ボタンをクリックします。

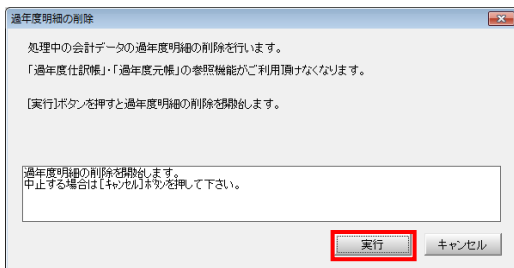


⑧確認画面が表示されます。「はい」をクリックします。必要に応じて借方の方でも同様の手順で置き換えます。



⑨【財務分析】-【過年度残高登録】を開き、右上の「仕訳クリア」ボタンをクリックします。

※この処理はこの後に【初期設定】-【開始残高登録】で残高を削除する為に行う必要があります。



⑩過年度明細の削除画面が表示されます。「実行」ボタンをクリックします。

科目名	コード	残高	期首残高	増加分	減分
現金	101	100	0	4,000	
現金当座	102	205,000	205,000		
当座預金	111	0	0		
当座振込	112	0	0		
当座振替	113	0	0		
当座貸付	114	0	0		
その他	999	0	0		
債権	130	404,204	404,204		
債権当座	131	0	0		
債権振込	132	0	0		
債権振替	133	0	0		
債権貸付	134	0	0		
債権当座	135	0	0		
債権振込	136	0	0		
債権振替	137	0	0		
債権貸付	138	0	0		
その他	141	0	0		
固定負債	143	0	0		
固定負債当座	144	0	0		
固定負債振込	145	0	0		
固定負債振替	146	0	0		
固定負債貸付	147	0	0		
固定負債当座	148	0	0		
固定負債振込	149	0	0		
固定負債振替	150	0	0		
固定負債貸付	151	0	0		
固定負債当座	152	341,000	341,000		
固定負債振込	153	0	0		
固定負債振替	154	0	0		
固定負債貸付	155	0	0		
固定負債当座	156	0	0		
固定負債振込	157	0	0		
固定負債振替	158	0	0		
固定負債貸付	159	0	0		
固定負債当座	160	0	0		
固定負債振込	161	0	0		
固定負債振替	162	0	0		
固定負債貸付	163	0	0		
固定負債当座	164	0	0		
固定負債振込	165	0	0		
固定負債振替	166	0	0		
固定負債貸付	167	0	0		
固定負債当座	168	0	0		
固定負債振込	169	0	0		
固定負債振替	170	0	0		
固定負債貸付	171	0	0		
固定負債当座	172	0	0		
固定負債振込	173	0	0		
固定負債振替	174	0	0		
固定負債貸付	175	0	0		
固定負債当座	176	0	0		
固定負債振込	177	0	0		
固定負債振替	178	0	0		
固定負債貸付	179	0	0		
固定負債当座	180	0	0		
固定負債振込	181	0	0		
固定負債振替	182	0	0		
固定負債貸付	183	0	0		
固定負債当座	184	0	0		
固定負債振込	185	0	0		
固定負債振替	186	0	0		
固定負債貸付	187	0	0		
固定負債当座	188	0	0		
固定負債振込	189	0	0		
固定負債振替	190	0	0		
固定負債貸付	191	0	0		
固定負債当座	192	0	0		
固定負債振込	193	0	0		
固定負債振替	194	0	0		
固定負債貸付	195	0	0		
固定負債当座	196	0	0		
固定負債振込	197	0	0		
固定負債振替	198	0	0		
固定負債貸付	199	0	0		
固定負債当座	200	0	0		
固定負債振込	201	0	0		
固定負債振替	202	0	0		
固定負債貸付	203	0	0		
固定負債当座	204	0	0		
固定負債振込	205	0	0		
固定負債振替	206	0	0		
固定負債貸付	207	0	0		
固定負債当座	208	0	0		
固定負債振込	209	0	0		
固定負債振替	210	0	0		
固定負債貸付	211	0	0		
固定負債当座	212	0	0		

⑩【初期設定】－【開始残高登録】を開き、資産の部に登録されている期首残高を削除し、流動負債に追加した科目欄へ同額を入力します。

手順をまとめると以下ようになります。

- ①資産の部のままでは青色申告決算書の負債へ割り当てられない仕様なので、負債へ新たに貸倒引当金を登録する。
- ②登録した科目を決算書印刷設定で負債の貸倒引当金の欄へ割り当てる。
- ③入力済みの仕訳(当期分)を、追加した負債の貸倒引当金に置き換える。(仕訳置換、仕訳修正、振替仕訳の方法があります。)
- ④期首残高の修正をする。(事前に過年度明細をクリアする必要があります。)

上記以外の方法としては、所得税の達人へインポートした後に、達人側で訂正をさせていただきようお願いします。

なお、TACTICS 財務 14 以降にアップしてから TACTICS 達人Ⅲの個人データをコンバートすると、貸倒引当金は科目分類「固定負債」の 198:貸倒引当金に集約されるようになりましたので、以下の設定で青色申告決算書四面の負債へ集計させることができます。

◆TACTICS 財務 14 以降へバージョンアップ後にコンバートしたデータの場合

【初期設定】－【科目設定】印刷名称タブで、雛形「決算書」を選択し、負債の貸倒引当金の欄に科目を割り当てる。

印刷科目名称	1	2	3	4	5	6	7
貸倒引当金	198						

- Q** 繰戻額等に「受取利息」が設定されていますが、青色申告決算書では貸借対照表の事業主借へ集計させたいです。どのようにすれば集計されますか？ **重要**

自 1 月 1 日 至 1 2 月 3 1 日

金額	科目	金額
213205	貸倒引当金	18864
393611	受取利息	13256
780000	固定資産売却益	32060
	計	

その他の負債			
事業主借			
元入金			
青色申告特別控除前の所得金額			
0	合計	0	0

の負債の総額」を差し引いて計算します。

- A** 1 頁のケースと同様に、TACTiCS 財務では科目分類を越えて集計させることができません。仕訳入力時に事業主借を使っていなければ、決算時に受取利息から事業主借へ振り替える仕訳を入れていただく必要があります。固定資産売却益など他の科目においても同様で、仕訳で事業主借を使っていない場合は、最終的に振替仕訳で調整をしてください。

または、所得税の達人へインポートした後に達人側で調整をしていただくようお願い致します。

- Q** 【初期設定】－【科目設定】の印刷設定タブの決算書で、貸借区分が違う科目も一行に割り当てられますが、これは問題ないのでしょうか？

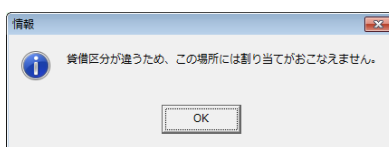
科目設定

科目・補助設定 | 印刷設定 | 特定科目

雛形:  試算表(定形A4)  試算表(定形A3)  決算書

印刷科目名称	1	2	3	4	5	6	7	コード	割当可能科目
売上金額	400	401	402	403	404	411	421	400	
家事消費等	419							401	現金売上
雑収入	441	905						402	カード売上
期首商品権卸高	497							403	自家消費売上
仕入金額	451	452	453	454	455	456	457	404	
期末商品権卸高	498							411	名称なし
期首原材料権卸高	508							419	家事消費等

- A** 個人データの決算書に限り、貸借区分が+と-の混在を認めていますので問題ありません。個人の決算書において混在を認めざるを得ない箇所がありますので、このような仕様になっております。なお、試算表の方では法人データと同様、貸借区分チェック時に混在箇所があると次の警告メッセージが表示され割り当てられないようになっています。



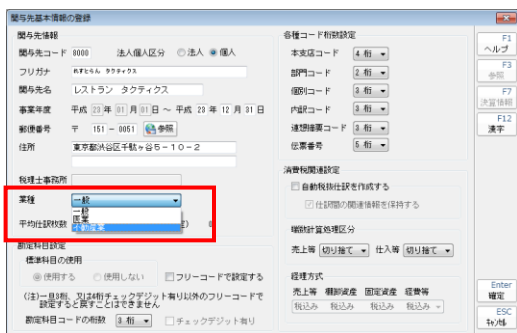
**Q** TACTiCS 達人Ⅲで本来不動産データなのに間違えて一般データにしていました。TACTiCS 財務へコンバートし、所得税の達人で不動産所得用の青色申告決算書へインポートするにはどうすればいいですか？ **重要**

**A** 業種区分(一般・不動産)が異なるままでは所得税の達人へインポートできません。また、TACTiCS 財務では、新規作成後に業種区分を変更する事ができません。下記のいずれかの方法で不動産所得用のデータを作る必要があります。

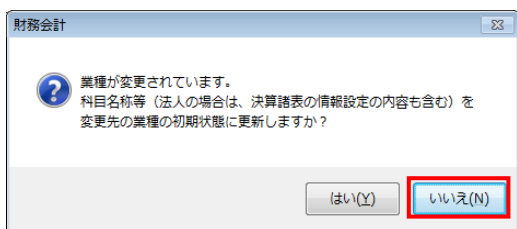
1. TACTiCS 財務で不動産データを新規作成する。

※TACTiCS 財務で新規に作成したデータの場合はこの方法しかありません。

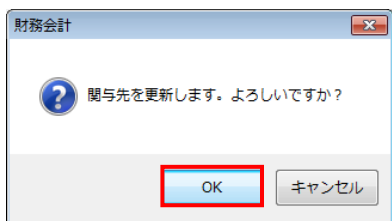
2. 下記手順により TACTiCS 達人Ⅲ側で業種区分を変更しコンバートをし直す。(必ずバックアップを取ってから実行して下さい。)



①関与先基本情報登録画面の「業種」欄で不動産業へ変更し Enter キーを押します。



②科目名称等を初期状態にするかどうかの確認画面が表示されます。「いいえ」をクリックします。  
※「はい」を選んだ場合は、処理完了後に科目名称の設定をご確認ください。



③更新確認画面が表示されます。「OK」をクリックします。



## 注意①

1の方法の場合は、勘定科目、補助科目、部門設定等を登録し直し、「仕訳のエクスポート」と「仕訳のインポート」を使って、元データ(個人一般データ)から新データ(個人不動産データ)へ仕訳を移行することができます。また、【拡張機能】-【摘要辞書設定】と【取引先辞書設定】の【F7:保存復元】を使って、摘要辞書・取引先辞書を移行することができます。

## 注意②

2の方法の場合であっても、コンバート後に変更した箇所(集約科目の調整、コンバート後に入力した仕訳等)は再度やり直す必要があります。集約科目の調整を元データ(個人一般データ)と同じように行えば、「仕訳のエクスポート」と「仕訳のインポート」を使って、元データ(個人一般データ)から新データ(個人不動産データ)へ仕訳を移行することができます。また、【拡張機能】-【摘要辞書設定】と【取引先辞書設定】の【F7:保存復元】を使って、摘要辞書・取引先辞書を移行することができます。

注意③ **重要**

まだ TACTiCS 財務へコンバートしていない個人データに関しては、業種区分が正しいかどうか TACTiCS 達人Ⅲで確認してからコンバートしてください。

## Q

所得税の達人の農業所得用の青色申告決算書にはインポートできないのでしょうか？

## A

データ区分が「個人／農業」のデータであれば所得税の達人の農業所得用の青色決算書にインポート可能です。(「個人／農業」への対応は TACTiCS 財務 15 で行っています。)

「個人／農業」データは、会計データの新規作成ウィザードで「データ区分からデータを作成する」を選ぶと作成することができます。

既存の個人データ(一般／不動産)を個人農業へ変換する事や、TACTiCS 達人Ⅲから個人農業データへコンバートする事はできませんのでご注意ください。

**Q** 一人で事業所得も不動産所得もある場合は、財務側でどういう風にデータ管理すればいいのでしょうか。また、所得税の達人へはどう取り込めばいいのでしょうか？

**A** TACTiCS 財務では、個人一般データと個人不動産データで完全に別々のデータとして管理してください。TACTiCS 達人Ⅲからコンバートされるデータも、達人Ⅲでの業種区分に従ってコンバートされます。連動に関しては、個人一般と個人不動産それぞれのデータから所得税の達人の一人のデータへインポートをしてください。

No▲	コード	データ名	会計年度	会計期間	データフォルダ	バージョン	共有
3		個人一般データ	1期	2012/01/01 ~ 2012/12/31	*\DATA#0003	13版	
4		個人不動産データ	1期	2012/01/01 ~ 2012/12/31	*\DATA#0004	13版	
5				~	*\DATA#0005		

**Q** 事業所得と不動産所得がある場合に、TACTiCS 達人Ⅲでは、一般と不動産データを別々で作成していましたが、普通預金口座は一つなので一般データにまとめて入力していました。売上や仕入などは所得別に科目を登録し、所得税の達人連動時に不動産所得分の科目を除外して取り込むようにしていましたが、TACTiCS 財務へコンバートし所得税の達人へ連動するには何か調整が必要でしょうか？

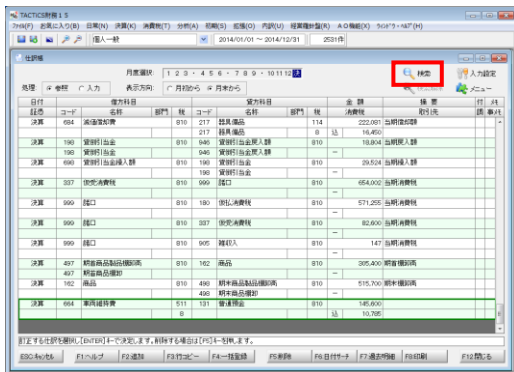
**A** 事業所得と不動産所得がある場合は、TACTiCS 財務では基本的にはそれぞれのデータに入力する必要がありますが、普通預金口座が一つしかない場合に、事業所得用データに普通預金の増減を全て入力し、不動産所得用取引の場合は、普通預金の相手科目として事業主貸又は事業主借を使用して仕訳を入力するという方法があります。これにより預金残高の突合せを事業所得用データで行うことができます。不動産所得用データに普通預金増減取引を入力する際は、収益又は費用の相手科目として事業主貸又は事業主借を使用して仕訳を入力するようにしてください。

例：普通預金に賃貸料が入金になった場合、以下の仕訳をそれぞれのデータで入力します。

事業所得用データで入力する仕訳・・・普通預金／事業主借

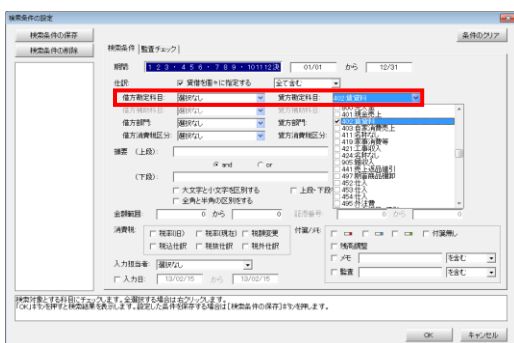
不動産所得用データで入力する仕訳・・・事業主貸／売上

なお、TACTiCS 達人Ⅲでこのような運用をしていた場合、コンバートされた事業所得用データの方には不動産所得用の仕訳が存在している可能性があります。その場合は、以下の手順で相手科目を事業主貸又は事業主借へ置き換えた上で、事業所得用データ、不動産所得用データをそれぞれ所得税の達人へ連動してください。



①【日常処理】—【仕訳帳】を開き、右上の「検索」ボタンをクリックします。

※「貸貸料」を「事業主借」へ置き換えます。ここでは「仕訳置換」機能を使って説明しますが、仕訳の修正や、振替仕訳を入力する方法でも問題ありません。

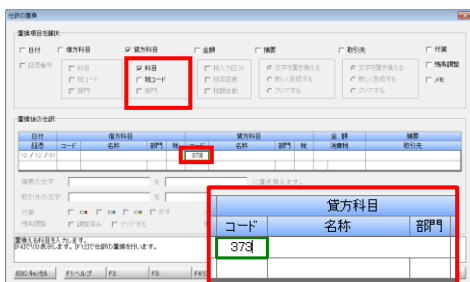


②検索条件画面が表示されます。科目で不動産所得用の科目を指定し「OK」ボタンをクリックします。

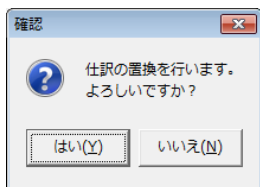
※ここでは貸方勘定科目で「貸貸料」を指定しています。



③検索結果が表示されます。右上の「メニュー」ボタンをクリックし、「仕訳置換」を選択します。



④仕訳の置換画面が表示されます。置換項目を選択欄で、科目(ここでは貸方科目)にチェックを付け、更に「科目」にチェックを付けます。画面中央の置換後の仕訳欄で、置き換える科目コード(373:事業主借)を入力し、「F12:仕訳置換」ボタンをクリックします。



⑤確認画面が表示されます。「はい」をクリックします。  
必要に応じて他の科目や借方の方でも同様の手順で置き換えます。

※必要に応じて不動産所得用データでも同様の手順で事業主貸へ置き換えてください。

**Q**

TACTiCS 達人Ⅲからコンバートしましたが、コンバート後の元入金の金額が違ってきます。

**A**

TACTiCS 財務 13 まででコンバートしたデータの場合は、TACTiCS 達人Ⅲで以下の科目を使用しているのが原因と考えられます。

科目分類	科目コード
特殊勘定	280
流動負債	343~364
固定負債	374

TACTiCS 達人Ⅲの翌期繰越処理では、これらの科目は事業主貸 (281)、事業主借 (373)と同様に元入金へ加減算されるように動作しますが、TACTiCS 財務ではコンバート時の特定科目画面で指定した科目 (各一科目)のみそのように動きます。



このようなケースにおいては、TACTiCS 達人Ⅲ側で上記科目を使っている全ての事業年度で、期末に振替仕訳を入力しコンバートし直してください。(内訳科目を登録している場合には内訳科目ごとに振替仕訳を入力し、内訳科目ごとの残高が 0 になるように調整してください。)

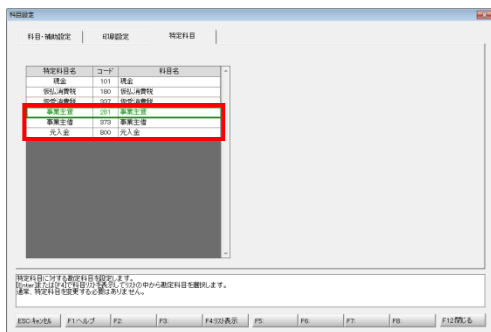
なお、単年度でのコンバートではこのような現象は起こりませんが、TACTiCS 財務で期末に科目を振り替える必要があります。

TACTiCS 財務 14 以降でコンバートしたデータの場合は、TACTiCS 達人Ⅲで以下の科目を使用している場合のみ同様の設定調整が必要になります。

科目分類	科目コード
固定負債	374

**Q** 事業主貸、事業主借、元入金の金額は、翌年度更新時に相殺されるのでしょうか？

**A** 【初期設定】－【科目設定】の特定科目タブで、事業主貸、事業主借、元入金のコード設定が正しく

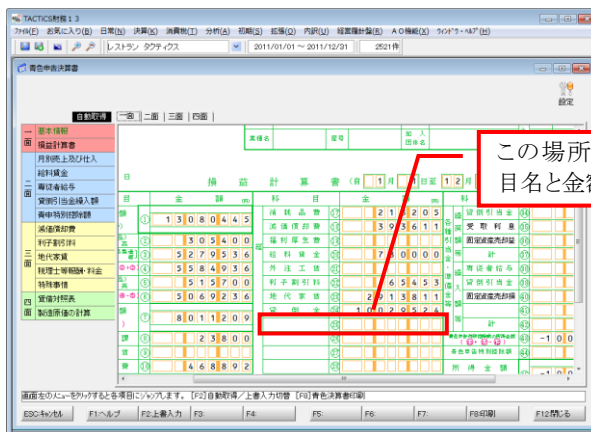


なされていれば、自動的に加減算処理がされるようになっております。なお、特定科目の割り当てはそれぞれ一科目となっておりますので、同じ性質の科目を複数登録していたとしても自動計算されるのは特定科目で割り当てられている科目のみとなります。複数の場合は勘定科目ではなく補助管理をしていただくようお願い致します。

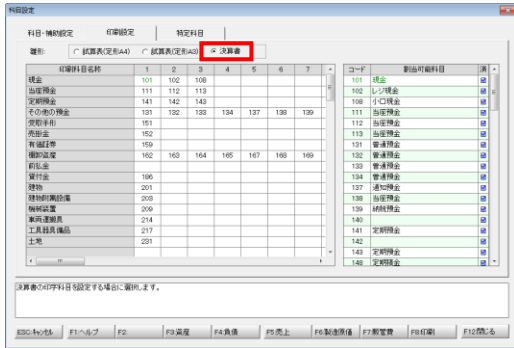
**Q** 青色申告決算書の損益計算書で、経費の予備科目欄へ集計させるにはどうすればいいですか？

**A** 【初期設定】－【科目設定】の印刷設定タブで、決算書の科目割当をすることによって集計させることができます。

例：個人一般データの経費欄で、貸倒金の下に「車両維持費」を印字したい場合



設定手順



①【初期設定】－【科目設定】の印刷設定タブを開き、雛形で決算書をクリックします。



②【F7: 販管費】ボタンを押し経費欄までジャンプさせ、貸倒金の場所までスクロールします。貸倒金の一行下の空白行の1番の場所に、車両維持費の科目コード(ここでは664)を入力します。

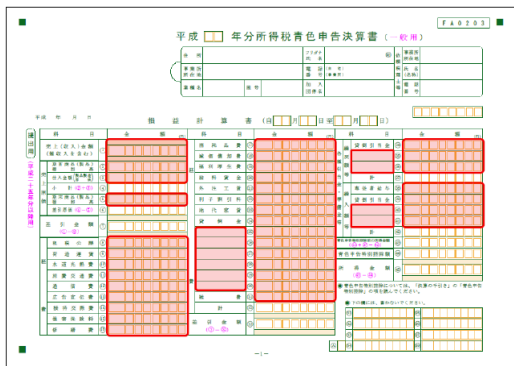
**注意**  
印刷科目名称欄の順番が青色申告決算書の印刷科目順となります。(経費以外の箇所も同様です。)

**Q** TACTiCS 財務から所得税の達人へ連動される対象項目は？

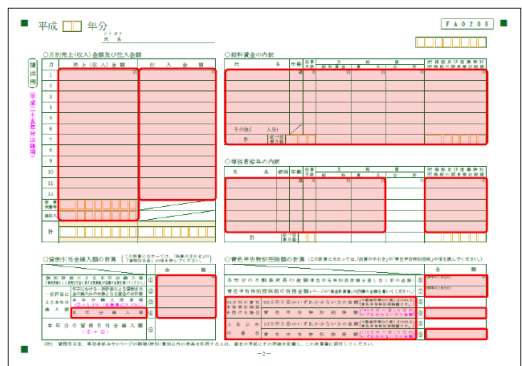
**A** 下記項目(赤枠部分)が連動されるようになっております。(連動コンポーネントマニュアルより抜粋)

青色申告決算書(一般用)営業所得／其他所得

一面



二面



三面

青色申告決算書(貸借対照表)

科目	借方	貸方	科目	借方	貸方
現金			現金		
預金			預金		
債権			債権		
固定資産			固定資産		
負債			負債		
純資産			純資産		

○純資産の内訳 (任意欄)

○負債の内訳 (任意欄)

○純資産の内訳 (任意欄)

四面

貸借対照表 (貸借内訳書)

科目	借方	貸方	科目	借方	貸方
現金			現金		
預金			預金		
債権			債権		
固定資産			固定資産		
負債			負債		
純資産			純資産		

○純資産の内訳 (任意欄)

○負債の内訳 (任意欄)

○純資産の内訳 (任意欄)

青色申告決算書(不動産所得用)

一面

平成 年分所得税青色申告決算書 (不動産所得用)

平成 年 月 日

○純資産の内訳 (任意欄)

○負債の内訳 (任意欄)

○純資産の内訳 (任意欄)

二面

平成 年分

○純資産の内訳 (任意欄)

○負債の内訳 (任意欄)

○純資産の内訳 (任意欄)

三面

青色申告決算書(貸借対照表)

科目	借方	貸方	科目	借方	貸方
現金			現金		
預金			預金		
債権			債権		
固定資産			固定資産		
負債			負債		
純資産			純資産		

○純資産の内訳 (任意欄)

○負債の内訳 (任意欄)

○純資産の内訳 (任意欄)

四面

貸借対照表 (貸借内訳書)

科目	借方	貸方	科目	借方	貸方
現金			現金		
預金			預金		
債権			債権		
固定資産			固定資産		
負債			負債		
純資産			純資産		

○純資産の内訳 (任意欄)

○負債の内訳 (任意欄)

○純資産の内訳 (任意欄)

青色申告決算書(農業所得用)

一面

二面

三面

四面

注意

青色申告決算書の画面で【F2: 上書入力】により手入力した金額は連動されるようになっています。





屋号がない場合、消費税申告書の「名称または屋号」と「代表者氏名又は氏名」の印字はどうなりますか？



「課税方式設定」の「納付者・付記事項」タブの設定で、「名称または屋号」と「代表者氏名」の両方に氏名を印字するか、又は「代表者氏名」の方にだけ印字するかが選択できます。（「代表者氏名と同一でも印刷する」にチェックすると、両方の欄に氏名を印字します。）

課税方式設定

計算方式設定 納税者・付記事項 | 金融機関・税理士 |

納税者		税務署処理権	
提出年月日:	平成 年 月 日	整理番号:	
税務署名:		申告年月日:	平成 年 月 日
納税地:	東京都渋谷区千駄ヶ谷1-2-3	指導年月日:	平成 年 月 日
電話番号:	03_3350-1234	付記事項	
名称または屋号:	鈴木一郎	<input type="checkbox"/> 割賦基準の適用 <input type="checkbox"/> 延払基準等の適用 <input type="checkbox"/> 工事進行基準の適用 <input type="checkbox"/> 現金主義会計の適用	
名称または屋号か:	スズキイロウ		
	<input checked="" type="checkbox"/> 代表者氏名と同一でも印刷する		
代表者氏名:	鈴木一郎		
代表者氏名か:	スズキイロウ		
経理担当者名:			

消費税申告書に印字する代表者の氏名を設定し

F1ヘルプ

平成 年 月 日	税務署長殿
納税地	東京都渋谷区千駄ヶ谷1-2-3 (電話番号 03 - 3350 - 1234 )
(フリガナ) 名称 又は屋号	スズキイロウ 鈴木一郎
個人番号 又は法人番号	<small>個人番号の記載に当たっては、左枠を空欄とし、ここから記載してください。</small> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/>
(フリガナ) 代表者氏名 又は氏名	スズキイロウ 鈴木一郎 